

1 学校教育目標 夢と誇りをもち、自ら学び、 共によりよく生きる砥川っ子の育成	2 本年度の重点目標 ①学力の向上 ②豊かな心の育成 ③健康な体づくり ④特別支援教育の充実 ⑤教職員の働き方改革の推進
--	--

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価						
①教育の資質向上をめざし、児童の着実な学力の定着を図る。						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
学校運営	○学校評価	学校評価システム、学校関係者評価の導入による職員の学校運営参画意識の高揚	・学校運営に参画している意識を持ったと答える職員を95%以上にする。 ・自分たちの取り組みで学校が改善されたと答える職員を95%以上にする。	・学校評価を学期ごとに振り返り、職員の意識付けを図る。 ・学校運営に関する振り返りを学期末にとり、改善点について職員からの意見を学校運営に反映させていく。	教頭	
学校運営	○教職員の資質向上	授業研究の推進	・教育センター等の研修や研究発表会に職員は必ず1回以上参加する。 ・校内研究が授業力の向上につながったと答える職員を90%以上にする。 ・「授業がよく分かる」「授業が楽しい」と答える児童を95%にする。	・校内研修を深め、児童が主体的に取り組み・考える授業を日々実践する。 ・全員研究授業に取り組み、指導力の向上につながる研究をすすめる。 ・教職員の資質向上に向け、講師を招聘する研修を充実させる。 ・全職員、年間1回は教育センター講座や先進校の研究発表会に参加をする。	教頭 教務	
教育活動	●志を高める教育	自己有用感・自己肯定感を高め、自らの夢や目標に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	・人の役に立とうとしたり役に立っていると自覚する児童の割合を70%以上にする。 ・自らの夢や目標に向けて努力していると答える児童を80%以上にする。	・1人1役で活躍の場を与え、取り組み方や成果を賞賛して自己有用感を育てる。 ・将来の具体的な夢に近づけるようゲストティーチャーによるキャリア教育を充実させる。 ・「あたらちゃん」運動を全校で実施し、自分が当たり前と考えることをちゃんとできるようにする。	教務 研究主任	
教育活動	●学力の向上	学習の基盤づくり	・漢字、音読、作文スキル、計算技能を高め、基礎基本の定着を図る。 ・学習用具や宿題の忘れ物をしない児童を90%以上にする。 ・家庭学習の習慣化。家庭学習時間 低:20~30分 中:40~50分 高:60~70分ができる割合を90%以上にする。 ・毎日机に向かう児童を95%以上にする。 ・ノーテレビノーゲームデーに取り組む家庭を75%以上にする。	・UDの視点にたった学習・生活環境の改善に取り組む。 ・朝のスウィッチオンタイム、すくすくタイム、やまびこタイムで国語・算数の基礎基本の学習に取り組む。 ・学習の開始時に立腰の姿勢をとり、集中力を高める。 ・家庭学習習慣形成のために「家庭学習の手引き」を作成、配布。 ・学年に応じた家庭学習の課題の出し方を工夫する。 ・ノーテレビ、ノーゲームデーの目的や効果を知らせ、前日・当日に児童や家庭に連絡する。	教務 研究主任	
教育活動	○教育の質の向上に向けたICT活用教育の実施	学力向上につながるICT活用の研究	・ICT機器を利活用しやすいように校内環境や教室環境を整備し、利用しやすい状況にする。 ・ICTを効果的に利活用したと答える職員を90%以上にする。	・教育情報化推進リーダーや教務、教頭による利活用推進チームをつくり、担任の意見を取り入れて、ICT利活用に関する諸研修への参加を促す。 ・ICT利活用に関する校内研修を行い情報交換の場を設けて、ICTの利活用機会を増やす。 ・プログラミング教育本格実施に向け、取り組みを始める。	教務 池田	
学校運営	業務改善・教職員の働き方改革の推進	情報の共有化	・校務において、効果的な使用法を追求する。 ・全職員が、共有フォルダ等の有効活用を図る。	・前年度の資料の活用、本年度分の資料の確実な整理等を適宜行い、校務が円滑に進むシステムを構築する。 ・共有フォルダ内を整理し、情報の「見える化」を図る。	教頭	
②人権教育を充実させ、特別支援教育に対する意識も高める。						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
教育活動	●心の教育	人権教育と情報モラル教育の充実	・人権教室を毎月計画的に行い、人権意識をもって友達と接することのできる児童の育成を図る。 ・道徳や学級活動、総合的な学習の時間を通して情報モラルについての知識を増やす。	・全職員で分担して人権教室を開催するとともに、人権黒板を活用し、全児童に振り返りの時間を確保することで人権意識を高める指導を行う。 ・授業参観の時に、情報モラルに関する外部講師を招聘し、個人情報や著作権などについて保護者や児童の正確な知識の向上を目指すことで、モラルアップにつなげる。 ・各学年の道徳や学級活動、総合的な学習の時間の年間計画に情報モラルに関する授業を計画するよう呼びかける。	特別 活動	
教育活動	●いじめの問題への対応	早期発見、早期対応体制の充実	・児童の心の実態をつかむ調査「心のアンケート」や観察に努める。 ・人権教育の推進を図る。 ・いじめ防止対策として、事前の「報告・連絡・相談」を徹底し、いじめの認知・覚知に対する対応マニュアルを含めて充実させ、対応の迅速化を行う。	・毎月のいじめを考える日を中心にいじめ防止について意識高揚を図る。 ・毎月1回「心のアンケート」で、いじめ・人権に関する調査を実施する。 ・砥川小を「いじめ0」にするための7つの約束を実践する。 ・いじめの認知・覚知に対する教員の意識を上げるための対応マニュアルを作成することで、早期発見ができる体制を作る。	生徒 指導	
学校運営	○特別支援教育の充実	支援を要する児童への教育の充実	・課題を抱えた子どもに対する共通理解を深め、専門機関との連携を通して、個に応じた指導・支援の充実を図る。 ・支援の必要な児童への理解を求め、場を設定する。	・月1回生徒指導協議会を開き情報を共有する。 ・児童の状況に応じてケース会を行い、関係機関等と連携しながら支援方法を探る。 ・個別の支援計画・指導計画をもとに、個に応じた指導・支援を継続する。 ・UD環境作りや特別支援教育に関する研修を実施する。	生徒 指導	
③情報発信、地域との連携に努め、開かれた学校づくりを推進する。						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
学校運営	○地域・保護者との連携	地域との情報交換と地域素材・人材の活用と公開授業の充実	・地域との連携を図り、参観日の参加率 80%をめざす。 ・砥川小地域連携室との連携を強化し、砥川小サポーターの活用を年間計画に基づき、実践していく。	・参観日の教育講演会等に、PTAにも参画してもらうことで、保護者の当事者としての意識を高めてもらうとともに、地域への広報についても協力を求める。 ・授業参観において、参観者参加型の内容を取り入れ、地域の力を活用する。 ・サポーターの要請窓口を校長に一本化することで気軽に参加できるように組織化する。	校長 教頭 教務	
学校運営	○情報発信	ホームページの充実	・「学校だより」や子ども達の様子を中心にホームページの更新を週に1回以上行う。 ・緊急連絡についても、ホームページにアップする。	・全担任が学級の様子をホームページにアップできるようにする。 ・「学校からのお便り」が確認できるようにホームページにも掲載する。 ・保護者宛ての学校メールを活用し、適宜大切な情報や連絡を行なっていく。	教務 教頭	
本年度の重点目標に含まれない共通評価項目						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
教育活動	●健康・体づくり	「早寝・早起き・朝ご飯」の食習慣(生活習慣)とたくましい体づくりの推進	・毎日朝ご飯を食べているという児童を90%以上にし、朝ご飯の内容については、(栄養・食事環境)等バランスのとれた食育指導を図る。 ・休み時間に元気に外で遊ぶ児童を85%以上をめざす。	・学期に1回、健康な体作りアンケートを実施する。 ・学校だより、給食だより、保健だよりで健康な体作りの大切さについて呼びかける。 ・運動や遊びなどに使える用具を整備・設置する。	保健 安全	